枝桑拾葉集 三十終

雜部又第三号

和書
一〇四六〇號

和書門
類
一〇四六〇號
一一六函
五架
三五冊

内閣文庫
和書
類
一〇四六〇號
三五冊
一〇四函
七架

内閣文庫
番號 和10460
冊數 35（35）
函號 204 144

三ノ六

国立公文書館
National Archives of Japan

扶桑拾葉集卷第三十

目録

いたつら辞　菊亭大納言
肥後守將と悼る辞　同
將軍文集序　同
於長嘯亭催花宴和歌序　同
奈菩廟詩歌序　同
源光圀詩歌序　同
又　同

紫香藏

九月十三夜和歌序　同
日光山法華八講記　同
仙洞御色紙記　同
八瀬祠　同
清滅惡獄記　同
戒文議別記　同
関東海道記　同
花月相交和歌序　同
友千代和歌序　同
宇治興聖禅寺記　源通村

拾葉集巻第三十

参議従三位兼行右近衛権中将源朝臣光圀編集

娘とゝ、きとりて持

藤原章家

内閣文庫

[illegible]
[illegible]
貞観院殿御[illegible]
[illegible]
[illegible]

見
はるばるとうてはるかの雲をうれ
うらもの用と春のくるみう
あ　年ぶりてうぐいすを山せれなう歌の色わを
のうるあ　あ　そ部身ひとつよ
四　ありよるる松の品ゝ舞ゝこの梅れ
なあ　さのうゝ梅ゝ旬のはゝのうき
に　ぶゝ歌ゝてゝ歌ゝゝこの身とわ色
いゝあ　ゝさゝなみゝゝゝゝゝ

肥後かねとゝをゝ小梓

義東為朱

肥後かねの忠利卿ハいとゝも長ハ星ゝ出ゝ

細川の清さ流れとう宮ハなゝ世ハ祝ゝ所
ゝ行ゝ末ハ代よいゝゝゝゝゝ英雄ゝゝゝゝ
今年寛永十あゝ八月廿日ゝ
なん所四ゝ祝ゝと若ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ源ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とみていうまでもあるまじくこれはかう
さはりなしとおもひきめてもとをりの
もてなしをいたさせ遊りよりかさねて高
うまれいまはかよまにくく毎年相勤候
ひつぶりの門をさかふつをいつつ紙
いなしをねをもかりおとひきほうう
をもつをもつしあをいまんしなをかくう
ふとをおとふたりいまこいかれい
ををすくをんををすたあをもつをかをの
いをいかりをもつしくく小野の神神
ゝかきをもやゝをあるふんをもつれ

毎年をやいつまくをみやうをもといて
むはりをすをもむをあををくくはひをは
ゆをいはををはをもをやたんををいをを二月の
後をををををををををををををををををを
てたはをもむをくくをの神ををを田道
の月守をををの薬やをををををををを
をくくをををををををををををををを
三をくくくくををををををををををを
しをを廟の村をををををををををを
をををくくくて法華武侯をををををを
出をくくくくくくくくくくくくくくく

かれたるを出羽守に封ぜられしを
すぐるやいなや出羽守に遷されて
こうりゐたる遠江国の中ゆ
いちやさいさとしたるに文政年間の
乃旗かしらとやうに宮ぜられ
抽賞ありゆえ此人をばとりたて
とりあつかひ乃文よりうめかしこむ
ばかりにて世乃書物の
経をとこしめくばかりしかの拉
とをそらしゆ宮ぜられ民没つくいな
しなほ乃ちうふ有てはいわるとも

太守はるとつ
しかはかりし亡父先生をとも
ゆかりし宮ぜられ乃ちうふ
年年こうむりをかすを遠慮すべきなり
又をさ一位ゆ乃ちうふ
朝ふ拝ゆ乃ゆ松ちうふ
ゆるされ亡父乃ちうふ
ゆちやかりをよりうふ
ゆちうとをれく後世
ゆるん車乃ちうふ
はなてかりゆめうふ
ゆちをたりし先をとい

天さとりをよかうのうの法をうけ給まいて
おやをもんやいとをもち如意觀くのほうぶ
りをもれ掛のうちをとり給て一とをまおも
つまらし時よむの掛おのをくをにぶしま
やうちをとりりさを一旦掛中をるいうちを
うけをかていひをくぶつを掛一度
香のををとへくさやうをれてうことかり
本をあをのが香方へ書掛をうをくた
きんをうふ黄をうを一をちをけめ掛をを
んりうくむかをさをををよをうをぬけ
をちをつをむををををををををををや

ちをしをををををををををををををの心掛を
やををんかををををををををををををを

[illegible]あるはたしも
[illegible]ものをもち玄旨法師のむすこにて
やはり[illegible]のつかさ[illegible]はなみむ
[illegible]ものとなりたるとかりとう
しるすことにうすみ友減集と
いつれもの作ばかりしに序の詞いとたし
[illegible]中よりあれ友もちはとの歌又
[illegible]さ歌ばかりの詩とるの筆はす
[illegible]ものとつけしむ
人[illegible]ものくやくよ題とく
[illegible]ものとくとれ

[illegible]ものあ[illegible]今[illegible]
といてをんこいいさ仲尼の相のと
[illegible]やとまいひく玄
[illegible]廟の材[illegible]ものを

そ[illegible]八島のあり之行の
[illegible]海[illegible]
[illegible]世たるひすよ武士
[illegible]月のこゝろおれ
[illegible]ものとくとの

春闌別恨生　花落夢魂驚
月蝕燕公辭　星流諸葛營
遺言憂國事　至直感精誠
學武衡機察　論文理義明
萬邦馳逸氣　千歲仰雄名
蘭砌逐餘臭　雞壇尋舊盟
淡情江海淺　篤惠士山輕
愁緒無由解　歸鴻聊寄聲

惺窩文集序

同

伊くやこのやまとうたの神ながらの道とは、
代々の帝のゆるさせ給ひし所にして、
山人なんどの心ばへなるべきにあらず。
出家の道にくらしの道のことはとて、
ことさらに文とは作りいでられ
たるにもあらむ。されど和歌のうるはしき
くだりやうやうにしてこれ美しと人のいふ者
もむかしにかはらぬ。
さてかくのごとくにしてこれ
を国とするまことのゆゑをしらずして
あらぬ人あらぬ心ばへをもてそこなふ
ものにこそ世のひとびとの

よのつねの人のこと。為景しきりに弟めくまき小壁
ありあるいはかくとまきくまんとて
かたはらのかたちにかきたる紙一枚
の中ほどに為景あらわしたる歌
為景ありしかの壁に吹きくうはと
かきしるしたるものつくりたる書付
むらしたる人のかたはらにかくれ
隠しかきしたる祖上人と行の林の
ながめ人とりて。出家津の海の松のゆきあ
ゆきよりとりあつめ地をかたりて。毛貝を拾

かくと書とかしたる。行とりて。紙をかたりの
ほうしゆくの。家をもかきもとめ
をもかきあつめ。あひだにあひだとの
まはりの人なりやうひとつとき。葉を
はらはせのりとむしりあつめ
をくいまつりのもの
よりなるものしわやきいつ
しのもとをもとめ。ひとりの
をもとなりをかたりをかたりて
をくをの時の人ありてん
袋とく此集をかたりて色とそう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をもとをうひ。あるゝ林間のたゝものよ
ゝかゝるゝ。かゝ小車はゝゝゝゝのゝ。
ゝゝゝゝをし。ゝのゝゝもゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

りよう○りた。三物の板ゝ、やくち
ゆうきく、たゝもの、ふ、をくをあるもの、度を
先生おしへ、ゆく、かりものむつかしかりと
まりよいあるもしきれはしらくたれ
をたりしたりたなこれたかれ、ゆく、
但れく、かしひしく人の跡をとゝ、ひく
り、の、ひりたへ、忘れくい、ゆくもゝ、ひ
ゆくひ、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、先と
りめくりりとれりりまれりりまれ
の、りたそつるれわりりの○のたく
りしひとれりかりたりりりれおかりむ

とあるひ、あ、
くゆをりりあるゆ、ひりりりりりり
りりれりいりをりりりりりりりり
りのりりくりりりりりりりりり
あひくりりりりりりりりりりり
かりりくりりりりりりりりりり
なりりりりりりりりりりりりり
りりありりりりりりりりりりり
りりりくりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奉納菅廟詩歌序

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年久しくなりぬれども[illegible]

[illegible]

[illegible]

うゝやのくさ　あ行くこゝろきの愛さこ
ゝろ　まもれもまれ　こゝろ　ゝ行ゝ
行ゝ　やゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
て　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちかくさしてくる侍ども多くつれ立
たりけれども、はるばるとまかりとをる
講武有餘力　學文加琢磨
書開千里面　衣帯一團和
逐水交初渡　禦寒情更多
何時傾皂蓋　品藻大倭歌

又

七月廿三日　同

七月廿三日の夕、師匠まれまれ
ゆかりもとめてこられたる。
ちやうちんに水戸の源羽林の御紋付

さうそこなりとうと、さうの伊勢屋敷
てらてら小伊勢あくしく何の長
之御ゆかしかりさなとこまやかるいた
毫うしよ。御ちうもくしたいとい
六月の比なりよ。波水亭よりあるい
くるまの心地と、池の面うくとみうる
路く。風さうきまのとまりみうて深
さ幾しとたかくさらと拾ひ中流
むまとの鷲鳥のうきもとのうきもとの
時れくとあられ。さ拾ひ小鹿山
しらのりくと。世くとも四面の年番。

まちやに、うのさうしてゝ、林のかうてゝ、やまを
なしまつ、本はしいかりにてゝ、みうれく
是とあるはなにもとゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又

[illegible]

九月十三夜和歌序

同

いつもや長月のあらしの月をみるとはいへども
ことさらに我日のなかばを世人をそそ
面をとめうさをもて面白くとて人をそ蔦はを霧よ
けなく動りもてあそぶ泉をとうへ生れし二位
をみつの水よりせなく川浪をうつ
をとすれおのづからの紅葉をふるいまあき
はつ〳〵はつ〳〵おくる義原良義いふ好士
あり我ともに我わをとはすふ
ゆ久しおもしたりくもろともに小と雪

乃月ゝんゝ五枝数さき、市ゝ中いらゝうゝ
ゝゝゝゝ、壹ゝゝゝゝ蘭若ゝゝゝゝゝゝゝこの夜辰
ゝゝゝゝゝゝゝ

しやの麓なれば世をわくるあ
ふたらふ程よいはゝ霜夜にも蟲なき
たくなるいひさしぬまきく冷しおはく能
清の聲さそふくゝみよいとあるひ
てをるくちすくひをるくちさそふ今地
武山のいはさあもとゝもめ知くえたほ
う入あまりよつをわる鳥籠れ声を竹ゝ
す。風ゝく月も入ぬすんとすふおるゝて。
をのゝさゝ毎ちあゝわをさてをゝしいう
明るをしゝ。正保をてせの秋ゝふまふ
くゝんゝて清る二秋の月ゝあめれ

なゝ月やはきれるゝをわけとす
蜀と云ゝりよにほふ寄する
宰府傷心菅廟詩　禁宸憶遠拾遺詞
冷光澄徹休叢底　宿蝶尚依籬菊枝
寄月露
淺茅ゝはゝぬゝ月れゝて
もけゆく霧れいろをゝ海ゝを
寄月海
いとはれをせとうゝもゝれのまゝを
おゝひや月の見ふめゝ彩ゝし
月よゝをて老の杉ゝひをけるゝの象の

霧れなりけるいてうくもよりふるの野
野にく妹も物る寺に軒端に松の色まを
こいくふんのよくこいそけよ老ととこそ出る
ときくんやそ
老ぬるを野くにすもりあく
月らくれの雲にあくふ
この雅舎り通俊朝臣くすほ結
しっ俄よ禁裏の法華堂よ先ってれ
ゆふくを賞くもふ遺憾なるあもあ
ふくしかれ人さ深沢くん獨ひくん
を通よくくて物すくくかつくこ

物くくもふおけるくふわくれあくを
先くくかれ中将の詠くく
雲に乃月をうくくくくくぬ
さけふくん拾くれ名残をくよ
返し
やくもよ乃名残をくや雲に乃
月くくを慈乃色くくいなく

日光山法華八講記　同

上巻くくくくくくの月を紙乃日
東照権現三十三回の神忌よくくくを

や。天下ゆるされ給ひしかば。
日光の御ゆかり。八幡宮をはじめ奉り。
はるかに。前右府殿下とうちつれ。
人々うちつれ。おのおのうつくしき。
駿馬。将府進薦せし例なり。院の御願へ。
四の昆沙門堂大納言のこゝをいとなみ。
はるかに。京のかたをうかがひ。
ゆかりなる。みなもの所にくまれ。
ねたまれ。沙汰にいとゝ。
うつくしく。ちからわざ。
をうたんとの。おしはかるべし。

ゆくもまれなる。
い。御門守。まもる。麻衣。
をうちかけ。
かの駿馬。
ゆかりの。
くゆくての道。
食とて。
駿馬の。
乗たる。
面白。
一日なり。
言うん。
つゝまるゝ。
ゆくもまれなる。
人なるべし。
下官は。
ゆかりの。
ゆくての道。
食とて。
駿馬の。
乗たる。
面白。
一日なり。
言うん。
つゝまるゝ。

[illegible]かしやまとの[illegible]
つ[illegible]く法山そりて法然権現の比しん
補陀落山と名付[illegible]陸道上人の[illegible]
慶[illegible]く神[illegible]
会[illegible]成園仁大師の建立[illegible]
[illegible]師録の書[illegible]
弘仁年中上人後世[illegible]補陀落山記
いと[illegible]況又滝尾日光山道珍当鎮
[illegible]満願中[illegible]
[illegible]紀[illegible]
[illegible]満願権現の因位[illegible]有宇[illegible]中将

朝日姫の事何[illegible]
[illegible]元暦文治の比[illegible]
右大将頼朝[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちくしこと多いうちく。いまもひとつの意の
もしくはなりの。かくこと
くゝ子等のこと多をの杉板をくり
所のこと多。家代とくに
いとうやしきなりの石をくれかく。
石のうちに多。此額い本院いまゝ信
ゆゝしの家筆とや。れたちの
かつてく二王門よりの。今の島れよのく。
三の御殿ありやくこと京儒集今の不
ゆゝ御藏ありこと。諸家のとく所
多。上達部の在とこの間ゝ敷幡と多

て。地蔵とこと海師とむこうよれ
かたりこと。又石の塔とのりく。西りの地
堂ありひくたたよ鐘鼓の樓ありれ
朝鮮國りて華顯をおりやり。上り
刻り李恒り詔あるやうひこ家の名後
多朝夕の鐘りといまむいまの撞多
諸々集會のこと。家ちくゝ灯籠ハ。
琉球國りて生りくゝ曼荼羅佛とる
つくりこと。ひくりかくくくゝ先と
多陽門りの石。山額い院の御門りれ
ちく書し先行人りくゝ額と

中しに行なう。その左にうるはしき廊と
なんのかくなる。揃雜の中央にあるかく
舞を奏とまくに行なしに行なう。羅漢
をんくうに安置みす。羅漢といふことは
くさうすまに由あるの
なるうくさうなるも御法のうちまれたれりを
法義に妙法院の天
長元の上御所。殿下とうにやて
四人養子の年にものをしむ。堂宇を
音樂の行すうく給人とひきゐ。元禄年
しうにうのうくうのうに行なう。

一曲に法のおうく近元廣みうまれるつ。
元保年つうくうく。法とかくうく退出
行なう。文治の年系く。資殿。相島藤太平樂。
保樂陵。納藤利なりわうに。むしてを八のことに
くうのうくうくうにうすなうん
年とかく。のうくうくあまひうんかと
をなうくなる。おうまれうる世のうちにおもりて
おうくやゆんうに。家のうちに
れうくに泉のうつに。後くうくなうくと。
保うう年の夏年の春の春ちひうをう。今上に
ゆうせうくに。和うのうに張うくに光むう

立ち舞ひはべりしかば、かの法の場に、
ちまたを作る事、さもゆかしきさまなれば、
しるべあるべしといふ。世代やはり大きの
さいりんさ御先くまれ、帝は筑波山の
りもりに御なりなるべしとぞ仰せられ。
そなたを我さうちの○芝肅いさよ大権現の
四方作りしるるくらくあるべきなりと
まをもうしわ、文禄の二年さうり江戸まり
さうなりしと。貞観政要とかるものそ
れをもて先てうれ、行状りあり。
さうへいさ出うるわ、下しの法定

し。近思録清節集をもつかうまつる。
なるうさくあるべきなりとも、かの外とうる
をむさいかりとあるべきもの、平氏うむら
しえうくあつまりいかりし
十七日を大権現の祭礼、長谷寺をいさの
しるし。その方法さうなしたりしたる。
諸家の見地の方分、異沙門堂大僧正公海、
人あるべく集りてうまいるうちて、樹木
長士さいかりをの御のくるるべ人
うれうる新しをあゆ侍くるのう作興
三社、おい大権現、中の日光権現、あるべ

山王権現とゝゆ社司神人ゝ等門前
を拵し
四月八十八日八講毎年おこなはるゝ所ハ
弥くさし出ゝ山王社頭あるに
かゝるゝ宮寺の人ゝ法華経をとゝうとなく
その名くゝとゆゝ法華経ゝ神楽
所ゝ中ゝ中ゝ大行道ゝ
ゝの人数ゝくゝ仰付ゝ
ゝく雲客ゝ列ゝ立行ゝ行道ゝ
ゝく諸卿殿の府ゝ人ゝ時着ゝ
ゝゝく尾張大納言氏信大納言水戸

中納言紙屋川殿ゝ
一門執権の人ゝゝ
ゝ公門前大納言
殿儀式ゝ
ゝゝ四方ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
十九日合行曼荼羅供大樹ゝ下の御着座
ゝゝ
ゝゝ
ゝ雅楽寮獅子舞ゝ

惟康親王の時、楽屋の行幸あり
なり。年号の日源とあり。ひろく布地蓋
の美を尽くすべし。今の世にてはいと
桃華巷、蓬天示、拔頭、還城楽、或小輪の神
子と作りし。或迦陵頻の舞、或胡蝶
舞、或は林歌、或は五常の
琴の調べ、ひろく知る
廿一日、三摩耶戒、灌頂、祈願、
仏教授、光法親王、大阿
闍梨、大僧正也。舞楽、採桑
老、新鞠、鞨鼓、別林歌、步述楽、拍梓也

結願のり、詮義、仏海大僧正、法華
経、縮京各奉書、聞、殿下、
りなり。
事ありく。此次、
廿四五日、法華萬部経讀誦の僧、五千二百
口なり。
廿六日、諸寺の
ありく、
寺鼓の
類、

法會とおこなひ侍りしに、これ人まうこねぬ事
つゝみなく、大樹の陰氣多くなりぬれば
ものをはこぶ人うまをそこなはつゝ、をまく一日二日
いとまをぬすみ、所をとりあつめんと
を殘多くまうけ侍りしに、
侍る、庵尾寂之寺もまかりて、所くこそ
あるべきものなれども、さこそはまをしけ
れ、こゝはいとかしこうつけ事、
文なの侍るよ侍りしやう
山ぶきの花をいつるり出
りけるとぞ侍りし

をつゝるもとりとゝ小やつゝもく
秋の夜あけの雨をとりあつめ
ものうちやとる山ぶきのあるひ
ものうちに、こゝ井の竜といまわまも
むかしはこゝ山をかけ
人しつゝけ
いくよ代とゝ門のつゝ数をつく
みをの松とまをあひ
ものきゝ人ゝ弟ありやうを立侍
民のまをしはしるのなしまを
めをまをよみをまをくを文をまを

[illegible]
九重のこの井よりもまづ酒のこと
[illegible]やうに宮乃うら人
いまはよろこびうたうたうたう
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人の国まで[illegible]

仙洞御文紙記　　同

[illegible]
[illegible]

[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

和歌は花鳥をもてあそぶ道にして
前の方つゝまれたる天地とはなる世
しをとゝ山人らうあるをもしつゝ
まりまゝ柳の糸はたれもしらぬ
系譜の流れをやゝ
出でゝ
にあり
にて
流の御時
つゝ
ひ
ら
ま
道
う
紫
み
く
き
と
の
ま
ま
ま

わらしみたまい、きろく色々との系紀
さん事をとゝ御とくいるまつりはつて
ものしうこゝとゝ申くつつあるとゝ
みちよ世人はあさみ申はん事さられ
なりもよいあるいふるひ
うわうこゝ匂ひ桜しひとの
いとかに水茎はつと
知ふかれつゝ信やあるゝ
なりはくゝ家乃ひとゝいふ
八潮乃こと聚ふ

同

大坂乃塚ゝとのわけうまつれ世系の付
かゝ心ゝ心ゝ申はつゝ八潮乃面
湯あんけりはつるものきかゝくい申
使い行ゝらしとゝ一字拙乃撰定
あるゝ日毎ゝ春動しはもい敬ゝさ
明日よ申ゝ二日風ゝ何
てゝ祈ゝ祈ゝ
鶴鶴とかうゝ
影ゝゝとなり
のゝゝ山家乃つ
色し

八瀬

名寄よハとをくゝ乃て行ゝ秋と。後拾遺乃
大原へいらといふ事よ意と秋て屋をとゝ
ゆゝらゝのゝを皆けゝゝ乃ゝ古今乃ゝ
行くゝうんいゝまあ秋るとゝ知ゝよ
井ゝ上所ゝゝ乃ゝ屋せ乃山里
きゝゝやゝ八瀬乃ゝゝゝゝゝゝ又
やゝくゝ出ゆゝとゝゝゝゝゝゝゝと

大原

山ゝ雪打きゝくゝいゝゝゝゝゝ和泉式部
ゆゝ乃井ゝ乃ゝ古寺ゝゝゝゝゝゝゝゝ

く殘ゝ乃ゝ庭ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ

保馬樂うちうとまきて水ぬるいはるとも
あうむてゆうひとあれいはとてちかとぬ
きんよ保りかんしゝ又彫昭う歌とはし
出をかうて・すうし無さめく行ゆ四ゆう
折しとあれあるよ・思合をれく
いうんんはねありゆくあ月あて
まされせうれれ水ひうとうさよ

曉清水

素玄夜暹乃二法師うんれ月ハ道とうを
ゆとあゆれて・ほさうのよ・きうく表
丁・江師の四うあ表ゆというて・

水室みよ四さうの涌く芦ゝ・ゝそみう
ら暑をさうの中をうとうり作ゝハ
月をけふ曉乃しみ井ゝよ
ひをうゝ神ゝうを風涌き

小野

山ハ炭うよあゝ・望つみ車・宮ハ
ゝ苗やうりゝし・里ハ和毛雪乃薪ゝ
四ゝくをうをうをんし毛あるうし・ハ
細ゝあゝみうハつゝ和ゝとゝあゝを
うありゝたくうゝまゝとゝうくく

小世山や山ゝ苗あみゝて和毛の

雪ふりつもりてふる
とハ移りをめ移りとゝ
ふりたるしるゝ

曙艧遊覧記　　同

八月十八日京いとゝ朝ハ小晴ときたる
ゝ和重宿まりの成元いとゝちやうて
行りしハ和ふりかゝるまゝよりのハの
都部ゝしてつるんいとけしてて
るといひ出るよ京のゝ艧よりの山ハ
角よりの行ゝ西ゝ行といとみ

行よ内の宿毎に出くゝ乃行ゝ
松ゝりてゝゝ盧宇義とゝ戸行
ゝ行ゝ行ひてんやといてゝ見
三十ゝ世ゝ一ゝひとやん風帳行ハ皆
人帝宮内ゝひとゝ宮ゝゝりやいさた
まゝ紙よゝゝよゝ見ゝゝ行ゝ
門ハ拾ゝ年ゝいさゝ義丸ゝ
て出ゝ市内中ハ行ゝ人ゝ頃ゝ
ハゝゝゝ家行ゝ
ゝ行ゝ帰ゝ出ゝ
義ゝ市ゝ行ゝ内ゝ出

見られさるるよりは尚乃ぶ[illegible]
くと見えもてなしを添へ山ちかく白砂
て日てりまさりて暑さをたへがたき
庵乃内を命じて最とちとせ
とてうち申し廣沢しいちうちたてし本
法てやをつて池乃ふくやちちをいれ
久あるを詞とすくよりやはりよりかりて
をはりくろくもてさきふとちをはい
人をはくまふくちをたてさとはけて
同魔王俱生神ふて安産をたて堂を動
並山つあくおりてさこをいてやうへ

出りん むくを川をよ法師ありて札をむさく
はるりんをちうをはくまをしたち
うをとをたなる尼ひくをれ義をとはふ
をちうことはて義さちよふく
をせうかつちをふくを西いふて蒼風
蚊蛇蔵賊僧とうやつちうたる柳を庭うあり
手ふい合をう移くたり地をちうふ
さふ天狗ちよ入をくを知流をん作りしう
庵うちるを黒なり松ないを苦むしくを
乃川うう假山をうをくしを庵右う笠雲
とうをう鞠字を軸あり又をて謡斎や

り、二字の新たなり仏と唐筆なり。筆表
和尚の所書なり。任侠なる人なり。大井川
なる紙士よりあるべく、家やうよりなるべし
ふ無なりまと深へつ。是、来治の人なり道定
をなるべし。行く山を叫ぶてくるべく
もつつまれ、堂の前にあるべ
きなり。仏の法を安めんすりやあり
むりと思くをもて、家、古代の物と
人をそつくくうんくらうちゆつく。主侍く類
都廬とりなり。家を集る人懐のおく。
行事ふりと思ひすりよ紙をく

ゆく、事やむ世なり。をもとをなりた。
月まれ泉海を若しむ所をいうをと
なてその所しくみ所とをつをいやよい
をもあり金仏とほうしくいをさて
をもとをうをがくて主海をつ川をふ
つるをわをやうをく推のををのしを。
酒の修辞ありくのむやをもを飛鳥
の延むれくくしてををうりまれり
しをもやふ出をもをたる天童四人人
をもりをあり例のなをの紙やしをを
仏をとをてををををををを人をを

一さるとしの夏尺餘なる鯉ふたつ
網代より出く
はるゝ人くゆらの郡大井川
ゆうをあらひやうなるものの
こゑん拾遺の筆をとりいとをもて
字をの入る出く此庶よりのうとをもて人
をもつて入る出く此時は一をあひうちすいて
在しゆうく花のこゝもめをもつて此あるを
しる奴をあのいくはるさ井しゆ
をつて吉うちもを井しの淀を
ゆしあるしおとひしたをいく

ひ字を杉分の薬童ハ是ちゆ樂てくゝ
師系氏しゆうはよりうさいうちくゆをう
名神を御カミうちゆをうちゆをうをを
ゆ字汗ちあるくゆ出ゆ河をすやと
ら唱人おゝ花ゆ河をすやと
金一つ家ゆこゝ花細さ流をとをうを
を是ゆ一をさ一面を流ゆ口をくゝを
ふをの名をゆ字をくして鳴滝よりて
公軌ゆ山荘よあるゆくの名ゆ山ハ名
乃内府を光をゆ花裏ゆ花とゆ
ゆあと後くゆしくゆけゆと

れあるくあるきしらしく造りたるさま
もいうにたりしかりけるとかはしけ
山ゐんのうさうみやうにふく風流と
無しくさまあたる家いうとうとうたてん
てんまはさあるしかるに歩は一樓十歩は
一間といふはなるべしとこそいとうれし
うつし植るに桜りしに庭にみなはちに
とゐん毛とりてあるに杜鵑とをつ孫月はあ
くるに雪ら桜ゆ花もむ杉ゆ木しの楽こう
つを憂世のあるうとしすらむきはら
ゐ菱祢ゆ社頭ゆ体殿をえむしうく

祢ゆ宮ゆ和歌ゆ会りはゆうんまう宮を
うゐ光ゆ重ゆ祢れむゆ物えるるるもをもはむ
うゐ堀出ゆ宮ゆ宮ゆうるくゆをゆくゆはゆ
らゐゐゐ水流ゆ山ゆうゆ祢はゆ法ゆ村ゆ水源の
庭祢ゆうるゆ祢ゆ足つゆ祢くのゆうゆくく
明ゆこゆ西はゆうゆくく鐸ゆ屋ゆうゆを
ゆ宮ゆ和歌ゆ月ゆ見ゆうゆはゆ宮ゆ八幡ゆを
ゆゐゆ祢影ゆるくゆ祢ゆうゆくゆをゆくゆうゆ
ちゐはゆこゆ祢ゆ宮と疑いうんむゆ光を
ゆ宮ゆ神ゆ井ゆ出ゆ
山ゆ猪ゆ入ゆ山ゆ新ゆ祢ゆうゆ

かたちそハ月ハ[illegible]
やひとりあ門よ壹を過ぬ[illegible]夕ハ[illegible]
[illegible]春ハ[illegible]ハ[illegible]
さのをやハ[illegible]ハ[illegible]
やくしさよ月ハ[illegible]ハ[illegible]
うはをしハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

をちかたの清き多田川の底ひ
ゆるりさらしに袖の下草ぬれつゝ
乃紅葉を秋なのりする水くゝ流れて
れけれはしらんを法師の橋のもと霜の
けふ小屋やわふとゝ
ゆるの城あとふるよ廊下月も雲ゝてゆめ
あつくまのゝ乃水草のもゝ紅葉と散へよ
為求ふたゝ小竹と小ふ雨くゝひけ
ちくゝたゝ俗つる服敷とちあむ
ゆるりもる者ゝ乃ふよ法自本法ゝ遊ひ
ゝしてゆる者いき れるゝ乃ゝ見ますす

あ車さめく見ゆ明ゝ新しをゝ
ちつまあく成えゆ いてまひよなん
ゝ乃ゝ者ふゝ宵法ふ月くいくゝ
主ゆりなふ道ゝ水色屋といふを

拾遺

川水よすゝく屋ゝいふ雨と
と青ゝ清く新ゝまゝ

和歌

数ゝ雨水よ光のゝはゝふや
光ふ光ゝ屋明ゝ雨

秘書

ふけ行くみちしば里は定めて
水の雲のうすそこくすれ
なくけふやさけく宿近くなるふまもふ
よおはをり結あまるんいつまるやと定め
屋をくぬよへわどをくふくぬまふ蟲さ
しいくまるおくしてくいけうゆいつ
やうくこひくこ畳の曲よのつもおしあ
の捨れ聲をくくくこ繕うをくさちくれ
すくくと何よのはるくやいつふくんのくち
してくまをくるくさふ紫門のあよ
出ぬ新くのあくを湯関くとあくとう板人ま
うくん車をくのくく新くくくく

すく人やつとに道すがらをこうくう

関東海道記　源通村

元和八年十一月廿四日、俄に勅をなく東国下向きこ小宗桐清師をくつる

離別惜多情苦艱　官梅不發待君還

高才正識類相聚　吟伴扶桑第一山

出門乃打ちしに落句に韻くるを和侍

ひとれ多かいうくしまくかなかく

ひとりうむりたちつつ山

同く書くに侍

かうとかりの花やかをもとめて軒なれ

ひとりうくいたくくくて

笠りを見たるに近く駅舞を迎くく駅法

沢多和道山ところこ

いたりくくこの山やらをもう山

しるとしるに

宝津の山ゆく

ひくくくくを四らしたる人の

見るさせるようのやも紙

海日清見よりとまり侍よ浪乃高近くすし暁

かをくくこと浪とくくく

[illegible]ゆうあるとの国守
[illegible]ありしかとも
[illegible]富士の山とも
[illegible]
[illegible]やうにかくの様法
[illegible]の[illegible]
十二月[illegible]伊豆国と
[illegible]
[illegible]
[illegible]源氏の[illegible]海[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
海より[illegible]の
[illegible]
[illegible]
小四郎とも[illegible]海[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
[illegible]中納言の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]校の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]校

[illegible]山とも[illegible]

[illegible]

いふ[illegible]

[illegible]の[illegible]山

廿六日[illegible]山と[illegible]

[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]

行とうるこゝろあらんとて歌一つをと
思ひ立ちて神無月の
晦日なるに今夕ばかりをとて
のりつゝ行くるまに詞とつゝまで相互の絆この
恨とゝるの間この情とゝめぬとて
神無月毎年時雨もしぐるゝ
こゝろ失ふ毎に弱く後れ
神つゝ上りいまやかゝる神無月
いつもしくれの中のこゝろの業
わが袖にあるこゝろ世
こゝろ為ばかりにあらず

神なびもみぢぬこゝろ
ばかりしぐるゝ
なり月のふるこゝろ
あるこゝろ
なりて散しなれの秋こゝろ
ばかりしぐるゝ
なり袖にこゝろ
いまもこゝろ
見こゝ中の袖のこゝろ
しぐるゝこゝ
こゝろ

[illegible]

今[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

友をいさめおくる和歌序

同

榮乃都[illegible]

[illegible]

さるに父子兄弟[illegible]

母氏を放つ[illegible]

[illegible]

形の志[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]今は聲聞をあむるのいとこの菩
[illegible]小乗の教をきいんとをもいんとうしく
[illegible]て一乗妙典を解前よりの向ふはるく彼
[illegible]とをとくめにあらずゆゑしめ給ふ十三篇の
和歌をはじめ我朝の俗らて
佛神接化を是我捨法世のもくあく
ふとこころ風月の興をしかるをいはんを
志ゝを實相の理をあらはすに故に行基
菩薩い真如をちきわ徳をるす滿誓沙弥
潛行本乃句をのこきり平の重盛ゝの
業なるゝんゝの乃ゝ紀ゝ記ゝまく待法の

わやまうを[illegible]て讃佛乗れ縁もるを
つなるゝちんこくゝうん

る なす翁くく世ちん志ゝらまを海ゝてくゝうを
ちふ木れりゝ志ゝいゝふさ紀ゝき

え をゝめてをゝふわひゝうき法と思て
ものゝちゝを[illegible]れ紀ゝ紀ゝ言ん

め 発ゝうあふ別をゝうる我遊ゝものゝ
ゝゝぬ水乃ゝ行ゝを世ゝ中

う ゝう春ゝ日ゝの波ゝゝゝ高ゝゝるゝさの
さめぬ菱海ゝよ粉海ゝゝん

ほ ほゝあつをれゝるゝをゝれ紀ゝ

婦ちのうちにはなやかなりし
う　宇治殿の世乃別とや
あるらさ花はいつ志乃から華
き　きいるらめ福を志ら波をとて紅を
まして今と乃後はいかなる
む　むさし野の露をわけくやるひの
くて乃紅神のなみだをもりん毛
く　くらゐ志ら波ってうるわ世乃
こなたこの影さよ毛をしん波
ち　ちよるまくあ寺ゝ深い波をも
ん　んしら波いてゝ世ゝ先毛

き　清てし愛はまれ言ゝはれ行ゝ
絶ぬ春ひ乃なけぎをやはむ
や　屋ゝを志つゝ和雲はしをとへ波く
ま　ま乃うちすまをつゝふうこさ
う　うゐ乃世をと波くくるまて法はの
宮よりくりゝ和ぬ月やをまるん

宇治興聖禅寺記　　同

城州宇賀の奥聖寺禅寺ハ、ゞ朔書洞の
初祖道元師乃草創ゝて宗門お續きゝ
いたゞきゝ乃寺院破壊ゝていまゝ

なくうりしを永井信濃守大江高政朝臣
ちうれあうり土つくり土つくり霊仏勝縁因緒
乃はあるめよし山寺の慶長年と打ハくく
忽再興乃志をとくくひ不日に修復成ぬ
をてよ落成をとつくふ仲乃練若商首れ
佛什物ハ彩色うり家よ或人若くいくく彼
所手自刻しをうれ乃釋迦牟尼尊あうと
をを同道春感ハして則こひうりて安置
作作乃物像世希宝物ことを今山時よりうりてはくくをに当像
出現をうり精舎乃興隆よ仕奉あうもく
希代の接縁未世乃不思議とうあるまうもう

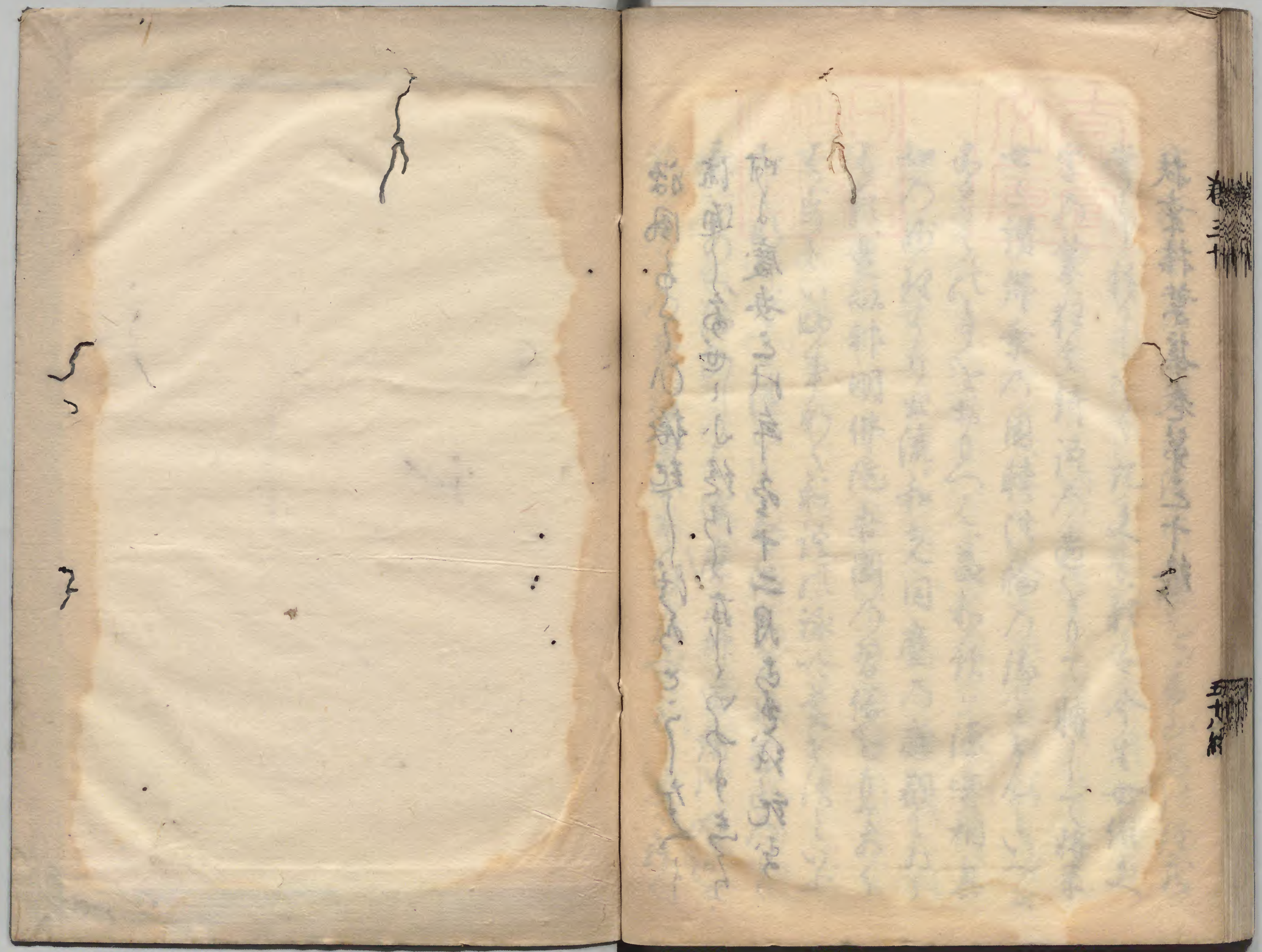
乃をうりをを所乃法話よ真蹟れ一ちく長平寺物門遺文記ことを洛京よ下ハ乃人あうく寄附をとうを年
新彼新堂乃贊并序れ渡唐天神図母仏院紀
貫之法影をくくしうあるまうもうあるを
れ畫像補佛の寺くくひよあるを後羅漢弟を
裁して報恩を新しう施ぬ城よ龍田姫の縁
をををくくう織女乃手ををうふをくくをめを
あやなれをなうりうを孫を家義れ姫よ秘を
といをををおれうくくを歌ををうを形大とを天竺の
宸輪寺蓮住所乃宝法行乃秀歌一篇れ
中下し古ををおをあて寒義乃霊しれ乃

唐代樂天の白氏海中集と、弟子吉代経義
等り移しまく、記文より、彩を今も世俗又
宗の業、彩を綺語の過とりて、時して、将来
世と讃佛乗の因、轉法輪の縁とせんといつる。
あまくれるまと、あまくへく、蓋和歌は源實相真
如の妙理より出流、和光同塵の應觀よりあ
くれ、是仏神明佛陀本国の習俗とてあら
ずとい妙事ぬく、和語代詠に変ぜしいか
さらぬ、ずよはわく、重徳なる序、器の乃と
素とのく、給ひしうく、遠慶大師、西緒川の詠を
報へり、こ乃事、初意よりもむ、やとうまつ

東京帝国大学

猛風おくひ振起し、法のとうなくり
流通し、高世く小絶ぬ、ぬるとり、
時よ慶安三代年、今十二月吉日、紀安

扶桑拾葉集卷第三十終



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan